［認知症対応型共同生活介護用］

1．自己評価及び外部評価結果

作成日平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７１７００８９９
法人名	医療法人社団　愛有会
事業所名	グループホームオリーブ苑
所在地	香川県三豊市詫間町詫間６７９－４０ （電　話）0875－56－5811

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２１年１０月２１日	評価決定日	平成２１年１１月３０日

【情報提供票より】（平成21年9月11日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16 年6月1日	
ユニット数	1ユニット	利用定員数計　　9人
職員数	7人	常勤　７人，非常勤　０人，常勤換算　７人

（2）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	43，000円		その他の経費（月額）	11，000円＋実費
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり　　1，100　円			

（4）利用者の概要（　9月11日現在）

利用者人数		9名	男性	0名	女性　　9名
要介護1		0名	要介護2		3名
要介護3		2名	要介護4		2名
要介護5		2名	要支援2		0名
年齢	平均	88．4歳	最低	80歳	最高　　95歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療社団法人愛有会　岩崎病院

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

笑顔を常に心がけ、入居者さんの訴えに傾聴し、一人ひとりにあった対応、介護を目指している。目的を持ち、一人ひとりが生きがいを感じる様、その人の興味を示せる作業(作品作り、家庭菜園、生活リハビリ)を行っている。入居者さんも重度化しており、医療が必要になるまで家族と協力して職員が全力で支援していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

木造づくりのホームは、花と緑の玄関、明るい光とゆったりした生活空間で、認知症になっても生き生きと自分らしく生活できるように、利用者・家族に寄り添う支援を実践している。創設6年目を迎えて利用者の高齢化、重度化も受け止め、一人ひとりを尊重した支援を工夫している。利用者からは明るい笑いや会話、歌声が絶えず、自分の生活ペースでできることをし、穏やかに暮らせるよう支援されている様子がうかがえる。また、健康管理や終末期の対応は、設置母体である病院のバックアップがあることで利用者・家族に安心と信頼を深めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や利用者のニーズに合った理念をあげ、毎朝唱和して職員全員に意識づけを行っている。また、ミーティングや申し送りで話し合い、実践につなげている。	理念の「やさしさ、愛情、尊重」を掘り下げて、職員全員で意見を出し合い、自分たちの大切にしたい支援を具体的に「サブタイトル」として作り上げ、毎日の実践につながるよう意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭やカラオケ大会、運動会などに積極的に参加している。また、朗読ボランティア、コーラスボランティアを通じ定期的に地域の皆さんと交流している。	運営推進委員等の支援を得て、地域の行事参加は少しづつ拡がってきており、散歩や買い物時に会う近隣の方との挨拶や声かけ、野菜等の差し入れ時やボランティア訪問の交流が続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の文化祭には利用者と職員が作品を出展している。地域の皆さんに習字や貼り絵等の作品を見ていただき、利用者が催しに参加する姿から暮らしぶりを理解していただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に利用者、職員の状態や問題点を報告し、意見をいただいて、できるだけサービス向上に活かしている。	運営推進委員の協力と支援が事業所の運営に大きく貢献し、地域の理解と支援を得ているが、3カ月毎である。今後も続けて事業所のサービスや利用者の状況報告、問題点についての意見や協力の積み重ねを共有していく事が望まれる。	運営推進委員が事業所の運営や地域の理解を得る為のモニター役、広報役、評価を担っていただけるよう話し合いを積み重ねてサービスの向上に取り入れ、会議に家族や利用者の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、意見を頂いたり、FAX、電話等で連携を取っている。	運営推進会議等で意見をもらっているが、業務等の関係で参加してもらえない時は、会議の報告や問題解決の相談等を積極的に伝えるよう努める事が望まれる。	役場に立寄った時など、事業所の実情や状況報告、取り組みについて折りに触れて伝える努力を続け、常に連携を深めて相談しやすい関係を維持するよう期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を出ると交通量の多い道路に面しているため、安全面と家族の希望を優先して施錠しているが、面会時や事務所に職員が居る時は、開錠している。	事業所の環境から「交通量が多く危険」「不審者侵入防止」の為、玄関の施錠については家族とも話合い、身体拘束しない暮らし、安全な暮らしの実践を事業所として工夫をしているが、家族等との話し合いも含めさらに、努力が望まれる。	一人ひとりのその日の状況に応じた職員の見守りや、家族との話し合いを重ねて、安全面に配慮した自由な暮らしの支援の場面が多くなるよう、取り組みを続ける事が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで高齢者虐待について話し合い、常に虐待の事実がないか顔色や様子から状態観察を行っている。職員がストレスを溜めないように問題点の解決に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中には、まだ十分理解できていない人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の意見を汲み取り十分な説明、納得を得て締結、解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を日々の会話から聞きだしたり、面会時の家族の意見を職員全員で話し合い、対応している。	利用者の意見や声の聞ける機会を大切にしている。玄関に苦情箱を設置し、面会時は家族からの意見や話を得られるよな雰囲気に配慮して、家族から得られた情報、意見は記録し、職員間へ伝達し、話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、日頃から職員の意見を聞くように努力している。	管理者は、職員が意見を話しやすい職場環境になるよう常に努め、職員も気づきやアイデア、意見を言えており、ミーティング時は全員で話し合える機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に職場に足を運んでおり、職員の実績や努力、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりの力量を把握しており、度々励ましの言葉をかけてくれる。法人内外の研修に参加することを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会で同業者と交流する機会が有り、情報交換して、良いと思う事は実践に取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をよく聞き、できることは、本人の納得いくように努め、徐々に信頼関係が深まるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をよく聞き、できるだけ希望に沿えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や要望をもとに、できる限り希望に沿えるように上司や職員全員で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でしきたりや昔の行事などを教えていただいたり、一緒に野菜作りや収穫等を積極的に行い、暮らしを共にする者同士の関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会において近況報告を行い、本人の意思を伝えたりして、今後の対応について話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や近所の方の面会があれば次回につなげるよう依頼したり、仏さん参りやお墓参りに行けるように家人にお願いしている。	地域で暮らす親類や友人の訪問、地域行事等への参加について、常に関係者に呼びかけて機会を捉え、関係作りの支援に努めている。また、毎月訪問してくれる朗読・歌のボランティア等との馴染みの関係作りもできてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握しているので、状況に応じて席替えしたり、席を離したりしてトラブルのないよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、他施設に入所された利用者さんの様子を伺ったり、医療が必要になった場合はお見舞いに行き相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で発する言葉から希望することは何かを汲み取るように努力し、困難な場合も職員が利用者本位に考えて実行している。	利用者の思いや暮らしの希望は、毎日の会話や行動表情から把握に務め、職員間で共有し、利用者に確認したり、家族を交えて話し合い、支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活シートや本人、家人の情報から職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやミーティングで職員全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の要望を聞き、アセスメントした上で職員が意見交換を行い、介護計画を立てている。	モニタリング、担当者会は定期的に行われており、全員で意見を出してケアマネジャーが介護計画をまとめ、家族、利用者に確認して作成される。日常支援の中での気づきやアイデアは職員間で共有して、個別のケアに具体化されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事を具体的に記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かし、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の文化祭やカラオケ大会、運動会などに積極的に参加している。また、朗読ボランティア、コーラスボランティアを通じ定期的に地域の皆さんと交流している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のフェスティバルやカラオケ大会に参加する等安全に留意しながら楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、主治医の往診があり、内服処方している。また、訴えや状態変化があれば協力病院を受診し、早急に医療が受けられるようにしている。	事業所の設置母体の病院からの定期往診や希望に応じた受診支援が出来ている。受診支援も設置母体の病院との連携も良く利用者・家族の信頼を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が必要に応じて来て下さる。協力病院といつでも相談や処置が出来るよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行い、入院時には職員が面会に行く等安心できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いを行い、必要に応じて主治医に相談し、今後の方針を決める等している。	入居時の早い段階から家族との話し合いができており、事業所のできる範囲の支援と看取り等についての同意書もある。利用者の高齢化・重度化もすすんでおり、状況に合わせた家族・主治医・職員間の話し合いも重ねられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にミーティングで緊急時の対応について話し合いを行い、訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関係機関の指導を受け、定期的に防火訓練を行っている。運営推進会議を通して地域の方達に働きかけている。	定期的な年2回の防災訓練の実施には、利用者も参加しており、隣接の施設とも協力関係が話し合われている。さらに、共同訓練や地域との協力の話し合いが望まれる。	隣接の施設との合同防災訓練や夜間想定訓練、消防や運営推進委員参加の訓練等で、具体的なシミュレーションをする等内容を広げ、体制整備をしていくことが期待される

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を職員が把握し、言葉かけや対応を適切に行えるよう職員全員で話し合っている。	日々の声かけや支援の中では、一人ひとりを尊重した対応に心がけ、利用者の意志を確認しながら、自分で選べるよう支援している。家族には契約時、相談・面会時にも説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを傾聴し、希望を聞き出すように努めている。何気ない会話の中から引きだせるような言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、個人個人の得意なことや出来ることを見つけ、自分のペースで色々なことが楽しめるように気を配っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来苑し希望に応じカットを行っている。以前より家族がカットを行っている方については引き続きお願いしている。帽子を被ったり、髪留めで留めたり、スカーフを巻いたりして、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは自主性を尊重し、職員と協力して行っている。食べ物の要望があれば変更する等、直に対応するよう心がけている。	利用者に合わせた調理（ペースト型3名）や盛りつけで、職員も一緒に食べながら声かけや会話、食後の歌等全員で参加し、笑いが多く楽しい時間となっている。自分でできる片付けや作業も和気あいあいとしている様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握の上、盛り付けを工夫し出来るだけ完食してもらえるよう努力している。一人ひとりの可能摂取量を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは緑茶でのうがいを励行している。自力で出来ない方については職員が介助している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、定期的な声かけ、誘導をしている。オムツ対応の方も、二人介助にてトイレでの排泄が可能になるよう支援している。	利用者の生活リズムや習慣を毎日丁寧にチェックして、一人ひとりの個別性を職員が共通認識し、トイレでの排泄を大切にし自尊心に配慮した排泄支援ができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頑固な便秘症の方については主治医と相談し、漢方薬を服用している。水分を多く摂る、リハビリ体操に参加等の声かけしている。職員は個々に応じた予防策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員数や利用者の体調変化により一人ひとりの希望に沿うのは難しいが、出来るだけ希望に沿える様に努力している。	利用者の生活習慣や希望を確認して、入浴したい日・時間を話し合って希望に添えるよう支援に努めている。「入浴をいやがる」「入浴の希望がない」利用者には、言葉かけや対応の工夫を重ねて、チームでの関わりで入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室で休息できるように配慮している。ソファーや畳コーナーでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服状態をカルテに入れ、薬の目的、用法、副作用について把握できるようにしている。内服確認と状態確認をしっかり行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割を探し、楽しみのもてる時間が増えるよう努力している。(生け花、貼り絵、箱作り、掃除など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩や外食に出かけている。近くのホームセンターまで職員と歩いて買い物に出かけることがある。	日常の外出支援は、高齢化や重症者の増加や天候、季節により機会に差があるが、散歩や買い物、野菜作り等戸外へ出ることを工夫している。利用者の親類や知人等へも働きかけて、利用者の思いに沿えるよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋のパンを選び、自分で支払っていただく等の支援をしたり、近隣のホームセンターまで職員と歩いて買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の申し出があれば、自ら電話できるよう支援している。年賀状や暑中見舞いのハガキを出したり、お礼の手紙を書く等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は大きな窓があり、日射しが十分に注ぐ、夏はロールカーテンで光を遮ることができる。風鈴や季節の花々を飾り季節感を演出している。	木調の明るくて広い共同空間は、風通しのよい落ち着いた環境で居心地よく、利用者の多くが1日の殆どを過ごしている。季節の花や行事の飾り物、利用者の共同作品等で生活感・季節感がいつも感じられており、水槽の魚や庭では利用者の犬が共に暮らす等家庭的な雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーには掘りごたつを設置しているので、寝転がったり、足を投げ出したりできる。ソファーでは、ゆったりと座り会話が楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の作った作品や家族の写真などをベッドサイドに飾っている。思い出の品物や馴染みの物を置いている。	居室は、家族の協力を得て利用者の馴染みの物、使い慣れた物が置かれ、居心地よい生活ができている。利用者二人の方から積極的に声をかけられ、部屋を見せてくださる等生活を楽しんでいる様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーで床はクッションフロアになっている。ホール、廊下、浴室、トイレには手すりをつけている。		